WEPs「問診票」による自己点検について

WEPs 原則 7

Transparency, Measuring and Reporting (透明性、成果の報告、測定)

WEPs 署名企業等は、署名を通して何が変わる(変わった)のか?

(署名企業の経験談より)

WEPs というモノサシで「見える化」したことで、 これまで自覚できなかった、女性のエンパワーメン トに関する自社の取組の先進性を発見できた

自社の取組は進んでいると自負をもっていたが、 WEPs で「見える化」してみると、新たな課題がわ かった

これまでも熱心に、積極的に取り組んできた実績があるので、署名の前後で変わることなく、引き続き取り組む

署名はしたが、その後具体的な取組は行っていない。担当部署・担当者が無いため、特段の変化は把握していない

(気づき) 自社の強み・アピール点の発見

(気づき) 新たに取り組むべき課題の発見

(停滞) WEPs を活かした気づきに至っていない

【自己点検】による気づき

WEPs を用いた自己点検のメリット

- 女性のエンパワーメント促進に関する総合的な視点が含まれていること
 - → 今まで認識が不十分であった部分を理解することができる
- 国際的に共通した7原則に基づくこと
 - → グローバル視点で自社の企業活動を評価することができる
- ジェンダー視点を手がかりに、サプライチェーン(原則5)・地域(原則6)といった要素に目を向けること
 - → 企業活動の多様な側面を点検・評価することを通して、CSR 等に新たな戦略を 生み出す可能性がある



自己点検によるメリットをできるだけ多くの署名企業等が理解・実践し、気づきと経営改善を進めることが、国内における女性のエンパワーメント促進に寄与する

⇒ 本チームとして、標準的な自己点検ツール (= 「問診票」) を開発

「問診票」のポイント

① 点検が簡便に行えること

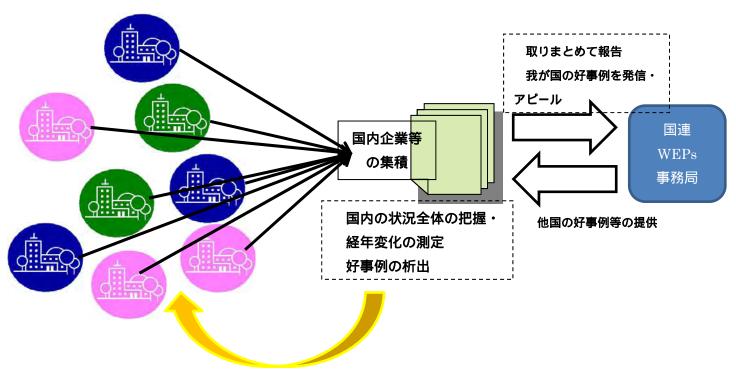
- ・これまでアクションを起こす動機が無かった企業等に対し、きっかけとなること が期待される。そのため、高度・難解な内容は避ける。
- ・既に自己点検を進めている企業等は、CSR報告書での記載・様々な報告の場等に おける取組が進んでおり、重複する作業負担にならないようにする。

② 我が国の現状に即していること

- ・WEPs は国際的に共通した枠組みであるため、中には我が国の企業活動において生じえない/当然に行われている事項が存在する。それらは点検項目から除外する。
- ・原文(英語)の趣旨を逸脱しない範囲で、国際基準に合致しながらも、可能な限 り我が国で広く通用する表現に置き換える。

③ 持続的な点検活動が可能であること

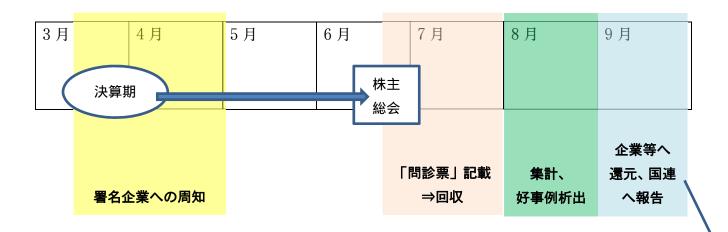
- ・ほぼ全ての項目を3段階評価にすることにより、経年比較による自社の理解促進・ 取組推進を簡便に見ることができる。
- ・定性的な記述欄を設け、自社の新たな取組を報告することにより、毎回の取組進 化を着実に見出すきっかけとなる。



各企業、団体、研究・教育機関等へ還元 他社事例等に基づく さらなる検討

平成25年度の「問診票」活動の実施について

- ◆ 初年度は、チームが UN Women 日本事務所等と協力して「問診票」を国内各企業に配 布、記載と提出を依頼。
 - (企業からの質問等に対応するとともに、質問等は以降の改善材料として蓄積)
- ◆ 結果を取りまとめ、国連 WEPs 事務局に報告。取りまとめ結果として得られた好事例 等を国内企業等に還元する取組を、チーム活動として行う。



企業等に共通する課題の検討 企業等の改善 に資する具体的 活動の展開(勉 強会等)